

令和5年度 事業報告書



社会福祉法人

素心会

## 目次

1 法人	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 P
2 素心学院	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2 P
障害者支援施設（生活介護・施設入所支援・短期入所）		
3 素心デイセンター	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 P
生活介護	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 P
就労継続支援B型	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 P
4 地域支援センターそしん	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 5 P
共同生活援助	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 5 P
相談支援	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 9 P
児童発達支援	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 2 P
放課後等デイサービス	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 3 P
自立支援協議会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 5 P
生活介護	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 7 P

## 1 法人

### (1) 法人の主な活動状況

令和5年度は、6月の任期満了に伴い理事・監事の改選を実施し、全員が再任された。

この年の大きなテーマは、人材確保であった。特に入所施設、グループホームの夜勤対応者の欠員補充が困難であった。今後も人材不足が続くことは確実であり、これまで以上の対策が必要と判断し、次の対応を取った。一つは、居宅介護事業等を廃止し人材の流用を図った。二つは、人材派遣会社を利用し新規夜勤職員の確保に努めた。三つは、常勤職員の定年を65歳まで延長し、経験豊富な職員の流出に少なからず歯止めをかけた。ただ、若年層の短期退職傾向、夜勤専従職員の高齢化による退職など法人全体で22人の退職に対し新規採用者は20人であった。

また、人材不足に加え新型コロナウイルスの影響による稼働率の低下、物価高騰や関係する補助金の減少などにより収支状況は厳しいものであった。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年4月より感染法上の位置づけが5類に変更となった。それにより、社会全体がコロナ前の日常を取り戻しているが、国の方針として福祉サービス現場における感染防止対策は継続となっており、我々の日常を取り戻すにはまだ時間がかかりそうである。令和5年度における素心会利用者、職員の感染者は合計で88人であった。

そのような中、基本理念の改正に取り組んだ。相次いだ制度改正と少子高齢化、人口減少が進む今後を踏まえ、中堅職員のチームを中心に、全職員の意見を募り、新しい基本理念を作成した。

### (2) 実施事業

施設・事業所	種別	実施事業		
素心学院	第一種社会福祉事業	障害者支援施設	施設入所支援事業	
			生活介護事業	
	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	短期入所事業	
	地域生活支援事業		日中一時支援	
素心デイセンター	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	生活介護事業	
			就労継続支援B型事業	
	地域生活支援事業		日中一時支援	
地域支援センター そしん	第二種社会福祉事業	障害児通所事業	児童発達支援事業	
			放課後等デイサービス事業	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	
			共同生活援助事業（さざんかホーム）	
	相談支援事業	障害児相談支援事業		
		指定特定（計画）相談支援事業		
	市町村委託事業			大磯町基幹型相談支援事業
				二宮町基幹型相談支援事業
				大磯町障害支援区分認定調査事業
				二宮町障害支援区分認定調査事業
		二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局		

### (3) 理事会及び評議員会の状況

ア 理事、監事、評議員 令和6年3月31日現在

理事長	萩原 勝己	素心会統括管理室長
常務理事	高瀬 尚人	素心会法人事務局長
理事	米山 勝彦	(社福) 理事長
理事	小林 倫	(社福) 理事長
理事	出縄 守英	(社福) 理事長
理事	大水 健晴	(社福) 理事長
監事	南山 利久	民生委員・児童委員会長
監事	永井 清光	(社福) 理事・施設長
評議員	坂田 泰二	会社代表取締役
評議員	土方 重治	会社役員
評議員	梓田 俊邦	(社福) 評議員
評議員	三箇 正子	元地域民生委員・児童委員並びに地域自立支援協議会会長
評議員	野谷 美恵子	前地域民生委員・児童委員会長、現同委員
評議員	木内 健太郎	居宅介護支援事業所代表
評議員	島田 哲	(社福) 地域支援センター長

イ 理事会の開催

第201回理事会 令和5年6月6日(火)

議案 第1号 令和4年度事業報告について

第2号 令和4年度計算書類及び財産目録の承認について

監事監査報告について

第3号 施設整備等特別積立資産への積立について

第4号 プロポーザル方式によるLED照明交換工事業者の選定について

第5号 神奈川県共同募金会助成決定に係るマイクロバスの車種の選定について

第6号 居宅介護事業の廃止について

第7号 令和5年度第一次補正予算(案)について

第8号 理事及び監事候補の選定について

第9号 神奈川県指導監査及び実地指導の報告について

第10号 第52回評議員会の招集(日時、場所、議案等)について

報告事項 ①社会福祉充実残額について(令和4年度 残額無し)

②理事長及び常務理事の職務執行状況について

第202回理事会 令和5年6月27日(火)

議案 第1号 理事長の選定について

第2号 常務理事の選定について

第3号 評議員選任・解任委員の選定について

第 203 回理事会 令和 5 年 11 月 22 日（水）

議案 第 1 号 重度訪問介護事業の廃止について

第 2 号 居宅介護事業に付随する移動支援事業の廃止について

第 3 号 定款の変更について

第 4 号 令和 5 年度第二次補正予算（案）について

第 5 号 神奈川県法人指導監査の報告・改善について

第 6 号 基本理念の改正について

第 7 号 給与規程及び非常勤給与規程の一部改正について

第 8 号 第 53 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

報告事項 ①令和 5 年度事業中間報告について（第 4 号議案に関連し説明）

②プロポーザル方式による LED 照明交換工事終了報告について

③理事長及び常務理事の職務執行状況について

第 204 回理事会 令和 6 年 3 月 6 日（水）

議案 第 1 号 施設整備等特別積立資産への積立について

第 2 号 令和 5 年度第三次補正予算（案）について

第 3 号 令和 6 年度事業計画（案）について

第 4 号 令和 6 年度予算（案）について

第 5 号 就業規則及び非常勤就業規則の一部改正について

第 6 号 給与規程の一部改正について

第 7 号 処遇改善規程の一部改正について

第 8 号 再雇用に関する規程の一部改正について

第 9 号 第 54 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

報告事項 ①役員賠償保険の更新について

#### ウ 評議員会の開催

第 52 回評議員会 令和 5 年 6 月 27 日（火）

議案 第 1 号 令和 4 年度計算書類及び財産目録の承認について

第 2 号 理事及び監事の選定について

報告事項 ①令和 4 年度事業報告について

②監事監査報告について

③社会福祉充実残額について

④施設整備等積立資産への積立について

⑤プロポーザル方式による LED 照明交換工事業者の選定について

⑥神奈川県共同募金会助成決定に係るマイクロバスの車種選定について

⑦居宅介護事業の廃止について

⑧令和 5 年度第一次補正予算について

⑨神奈川県指導監査及び実地指導の報告について

第 53 回評議員会 令和 5 年 12 月 7 日（木）

議案 第 1 号 居宅介護事業に付随する移動支援事業の廃止について

第 2 号 定款の変更について

- 報告事項 ①居宅介護事業及び重度訪問介護事業の廃止について  
②令和 5 年度事業中間報告について  
③令和 5 年度第二次補正予算について  
④神奈川県法人指導監査について  
⑤基本理念の改正について  
⑥給与規程及び非常勤給与規程の一部改正について  
⑦プロポーザル方式による LED 照明交換工事終了について

第 54 回評議員会 令和 6 年 3 月 25 日（月）

- 報告事項 ①施設整備等特別積立資産への積立について  
②令和 5 年度第三次補正予算について  
③令和 6 年度事業計画について  
④令和 6 年度予算について  
⑤就業規則及び非常勤就業規則の一部改正について  
⑥給与規程の一部改正について  
⑦処遇改善規程の一部改正について  
⑧再雇用に関する規程の一部改正について  
⑨役員賠償責任保険の更新について

#### （4） 監事監査

実施日時 令和 5 年 5 月 22 日（月） 午前 10 時から午後 4 時

実施場所 素心学院 地域交流室

監事 南山 利久 永井 清光

監査事項 理事の業務の執行状況及び財産の状況

監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集を行うとともに理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属明細書について検討し、さらに会計帳簿やこれに関する資料等の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類及び財産目録について検討をいたしました。

監査に使用した資料等

##### ①事務局事前提供資料

令和 4 年度事業報告書

令和 4 年度決算関係資料、決算報告関連資料及び決算説明資料

財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務実施報告書

## 新型コロナウイルスに関する対応経過（令和4年度まとめ）

- 監査結果 ①事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- ②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に処理、表示しているものと認めます。

### 監査講評

理事長、常務理事の指導、監督のもとに業務は良好に執行されておりました。

新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も感染が続きました。素心会においても利用者、職員に100人を超える感染者が発生し、活動や行事の中止等の大きな影響を受け、その対応に追われたことと思いますが、その対応は適切になされていました。また、関係機関への連絡や利用者、その家族及び職員への報告、そして内容説明も大変わかりやすいものでした。

気候変動やロシアのウクライナ侵攻を受け、世界中で物価高騰が続いております。日本もその影響を受け、エネルギー価格や食品価格等が値上がりしており、物価上昇が法人経営において大きな課題となっています。令和4年度においては、高額の寄付金や各種補助金があり、また様々な経営努力がなされましたが、事業活動において赤字決算となりました。今後も円安等の状況を考慮すると物価上昇が続くと想定されますので一層の経営努力を願うところです。

事業活動における大きな課題として「職員不足」が挙げられています。採用努力にもかかわらず若年者の新規採用ができないことは法人の将来にも大きな影響を与えます。費用対効果をよく考慮し、採用における工夫が求められるところです。また、職員の高齢化も組織維持の上からは課題となります。現在のところ、常勤職員の年齢別構成比をみるとバランスがとれていますが、非常勤職員を含めた年齢別構成比をみると50代、60代で44.7%を占め、70代まで入れると職員の過半数を超えています。比較的年齢が若い非常勤職員の採用もなかなか難しい状況ですが、今後の組織活性化の上からもご努力をお願いします。

就労継続支援B型事業の取組みにおいて、パンの種類や販売場所を増やすなど工夫をされており、売上目標を超えたことは努力の現れであり大変評価するところです。引続き売上増を進め工賃アップを目指して下さい。

支援体制については、理事長より法人設立の経緯と沿革、基本理念について説明を受けました。（社）素心会は昭和30年に設立され、今日まで大磯町及び二宮町の障がい福祉ニーズにしっかりと応えながら事業を展開されています。現在は、地域に愛され、多くの方々にご利用いただく事業所を展開するなど、地域に根付いた福祉サービス事業に広く取り組まれていることに、改めて法人監事として理解が深まったところです。また、各事業所の管理者をはじめとした幹部職員から運営状況について説明を受けましたが、皆さんは事業所の役割と課題等を認識しながら、組織としてしっかりと支援サービスに取り組まれています。

現在、基本理念の見直しを進めているとの説明を受けましたが、新しい時代に即した（福）素心会として相応しい基本理念を検討いただければと思います。

素心学院と共同生活援助（さざんかホーム）では、利用者の加齢・基礎疾患に伴う病弱者、重度者の増加が顕著になっており、支援サービスを維持するための体制確保に尽力されていました。

また法人全体では、支援者の高齢化と人材の採用が困難になるなど、支援体制の構築に苦慮される状況にあります。今後の事業運営にあたっては課題が山積していますが、法人全体で一致団結して、知恵と工夫を持って事業運営に取り組んでいただければと思います。 以上

(5) 県許認可・指導事務等

ア 定款変更認可

神奈川県指令 地福 第 2585 号

認可日 令和6年1月24日

変更内容 (移動支援事業の廃止)

変更後

(目的)

第1条

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 障害児通所支援事業の経営

(ロ) 障害福祉サービス事業の経営

(ハ) 相談支援事業の経営

変更前

(目的)

第1条

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 障害児通所支援事業の経営

(ロ) 障害福祉サービス事業の経営

(ハ) 相談支援事業の経営

(ニ) 移動支援事業の経営

イ 神奈川県法人監査

日時 令和5年9月26日(火) 9時30分～15時30分

会場 素心学院 地域交流室

文書指摘事項 なし

口頭指摘事項 定款細則第34条において、監査報告の内容として「(1) 監査の日時及び場所」を報告することと規定していることから、監査報告書に「監査の日時及び場所」を記入するようにしてください。

(6) 登記事項

ア 役員に関する事項

令和5年7月4日登記 理事長 萩原勝己 重任 令和5年6月27日

イ 資産総額の変更

令和5年6月28日登記 令和5年3月31日 変更 1,817,352,892円  
(令和4年3月31日 変更 1,848,784,898円)  
(令和3年3月31日 変更 1,855,077,024円)

(8) 重点事項への取り組み

重点課題		実施（完了）事項	継続 終了
人材確保・育成、組織風土づくり	人材の確保と新規利用者の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの募集活動に加え人材派遣会社を利用し対処した。直接採用より割高になり、経歴等不透明感もあるが、比較的早期に候補者が挙がることや職員指導面等活用価値もあると感じている。今後も様々な角度から人材確保を進める。</li> </ul>	継続
法令順守と財務に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待防止活動の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属長による職員面談、虐待防止研修、啓蒙ポスターの作成等を実施した。</li> </ul>	継続
土地・建物・設備等	<ul style="list-style-type: none"> <li>さざんかホームの再整備について</li> <li>素心学院及び素心デイセンターLED照明交換工事の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き用地候補について調査したが、実現可能な物件は見つかっていない。</li> <li>計画通り完了した。居室等の明るさは格段に増した。</li> </ul>	継続 終了
サービスの質	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う感染防止対策等の整理</li> <li>地域生活支援拠点における緊急短期等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国、県の指針に基づき整理し実施した。</li> <li>素心学院支援課長を中心としたチームでの検討を経て、素心学院を地域生活支援拠点における緊急短期等の実施施設として、大磯町、二宮町に登録した。</li> </ul>	完了 終了
ガバナンス、情報、ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人理念の改定と素心会中期計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅職員によるチームを構成し、全職員の意見を募り、基本理念改定案作成に取り組んだ。中期計画は、今年度が更新時期となっており統括管理室で案を作成しているが、令和6年3月の報酬改定の内容が未だ不鮮明であり、明らかになったものを反映し、令和6年6月の理事会に提出する予定である。</li> </ul>	継続
社会福祉充実計画への取り組み（具体的な地域貢献事業への取り組み）		非該当	継続

(9) 委員会活動状況

名称	開催数	主な活動状況																																										
防災対策委員会 (消防法令他)	会議 5 回	引き続き、BCP（災害時事業継続計画）及び BCP 別冊の検証・更新を進め ライフライン確保マニュアルの検証を中心に、防災用備蓄品リストの確 認、不足品等の補充、整理を実施した。																																										
衛生委員会 (労働安全衛生法、就業 規則、衛生委員会規則)	会議 2 回	<p>1 労災について</p> <p>報告は 6 件</p> <p>①支援センター：畑作業中、木の枝を折ろうとした際、右手親指捻挫</p> <p>②支援センター：エアトランポリンで足を滑らせた児童を支えよう とした際、左手小指第 1 関節の痛みと腫れ</p> <p>③素心学院：勤務後、駐車場に向かう途中路面で滑り転倒し、右膝 等挫傷</p> <p>④素心学院：床に飛散していた破片を踏み、足の裏を裂傷</p> <p>⑤デイセンター：スライサーの刃に触れ、左手第 1 指先切り傷</p> <p>⑥デイセンター：学院ーデイセンター移動中に足を滑らせ転倒し、 左第 2、3 指基節骨骨折</p> <p>2 過重労働について（月 45 時間以上）</p> <p>報告は 6 件</p> <p>グループホーム：職員退職に伴い補充がうまくいかない中、本人了 解のもとやむを得ず勤務</p> <p>3 各事業所巡回報告（働きやすい職場環境づくり）</p> <p>特に報告なし</p> <p>4 健康管理について（健康診断、メンタルヘルス、腰痛 等）</p> <p>①定期健康診断を 10 月に実施し、健診結果で就業制限の必要な者は いなかった。</p> <p>②平成 28 年度からメンタルヘルス対策の一環として義務付けとな った「ストレスチェック」を 11 月全職員対象に実施した。</p> <p>対象者 141 人 回答者 131 人 回答率 92.9%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 3 年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ストレスが高い</td> <td>15.6%</td> <td>17.6%</td> <td>12.0%</td> <td>15.0%</td> <td>8.9%</td> <td>14.5%</td> </tr> <tr> <td>やや高い</td> <td>25.8%</td> <td>20.6%</td> <td>26.1%</td> <td>21.8%</td> <td>21.5%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>中程度</td> <td>33.6%</td> <td>29.0%</td> <td>31.0%</td> <td>28.6%</td> <td>32.6%</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>低い</td> <td>21.9%</td> <td>28.2%</td> <td>26.8%</td> <td>27.1%</td> <td>32.6%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>評価不能</td> <td>3.1%</td> <td>4.6%</td> <td>4.2%</td> <td>7.5%</td> <td>4.4%</td> <td>4.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>③腰痛体操は実施できなかった。</p> <p>5 その他</p> <p>①委員会の開催は定期健康診断後に 1 回、その他月次の確認事項、</p>		令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	ストレスが高い	15.6%	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%	14.5%	やや高い	25.8%	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%	17.4%	中程度	33.6%	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%	34.1%	低い	21.9%	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%	29.7%	評価不能	3.1%	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%	4.3%
	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度																																						
ストレスが高い	15.6%	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%	14.5%																																						
やや高い	25.8%	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%	17.4%																																						
中程度	33.6%	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%	34.1%																																						
低い	21.9%	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%	29.7%																																						
評価不能	3.1%	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%	4.3%																																						

		<p>報告事項等については毎月各事業所と連絡を取り、まとめたものを供覧する形で情報の共有を図った。</p> <p>②新型コロナウイルス対策については、第5類に移行した後も原則法人の「新型コロナウイルス対応マニュアル」に基づき、各事業所感染防止に努めた。</p> <p>ワクチン接種については、7月に6回目の接種を完了した。</p> <p>③平成27年度より（社福）福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で全職員加入し、福利厚生の充実を図った。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったAED研修を再開した。</p>																				
<p>研修委員会 （障害者総合支援法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準・各運営規程・素心会研修規則）</p>	<p>会議7回</p>	<p>1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修規則・研修要項に基づき次の研修を実施した。</p> <p>2 当年度の研修</p> <p>(1) 基礎研修</p> <table border="1" data-bbox="636 864 1455 1355"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td> <td>令和5年6月13日</td> </tr> <tr> <td>自閉症</td> <td>令和5年7月14日</td> </tr> <tr> <td>倫理・人権</td> <td>令和5年9月15日</td> </tr> <tr> <td>感染症の予防とまん延防止・てんかん</td> <td>令和5年10月13日</td> </tr> <tr> <td>介護技術</td> <td>令和5年11月10日</td> </tr> <tr> <td>記録・接遇</td> <td>令和5年12月8日</td> </tr> <tr> <td>ダウン症・高齢化</td> <td>令和6年1月12日</td> </tr> <tr> <td>リスクマネジメント</td> <td>令和6年2月16日</td> </tr> <tr> <td>制度</td> <td>令和6年3月19日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 実践研修</p> <p>実施日 令和6年3月29日</p> <p>場 所 素心学院地域交流室</p> <p>発 表 ・ダウン症の早期老化について ・Aさんにとっての自立ってなんだろう ・作業等移転後の生活3班</p> <p>(3) 基幹研修</p> <p>テーマ 10年後の素心会をデザインする</p> <p>進行等 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター</p> <p>参加者 ①課長・主幹・リーダー ②常勤若手職員</p> <p>①プロジェクトA（基本理念見直し） ②プロジェクトB（ホームページリニューアル）</p> <p>内容 別紙報告書のとおり</p>	内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和5年6月13日	自閉症	令和5年7月14日	倫理・人権	令和5年9月15日	感染症の予防とまん延防止・てんかん	令和5年10月13日	介護技術	令和5年11月10日	記録・接遇	令和5年12月8日	ダウン症・高齢化	令和6年1月12日	リスクマネジメント	令和6年2月16日	制度	令和6年3月19日
内容	実施日																					
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和5年6月13日																					
自閉症	令和5年7月14日																					
倫理・人権	令和5年9月15日																					
感染症の予防とまん延防止・てんかん	令和5年10月13日																					
介護技術	令和5年11月10日																					
記録・接遇	令和5年12月8日																					
ダウン症・高齢化	令和6年1月12日																					
リスクマネジメント	令和6年2月16日																					
制度	令和6年3月19日																					

		(4) 外部研修 施設・事業所ごとに実施。実績は各事業所の報告にて。
虐待防止委員会 (障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準)	会議 1 回	1 日時 令和 5 年 10 月 2 日 (月) 10 時より 12 時 2 場所 素心学院 地域交流室 3 出席 萩原理事長 高瀬常務理事 長谷川施設長 小野田所長 鈴木所長 川崎課長 第三者委員 中野弁護士 岩本社会福祉士 4 議案 (1) 社会福祉法人素心会の事業実施状況及び苦情等に関する状況報告 (2) 虐待防止のための職員セルフチェック集計結果による意見交換
リスクマネジメント 推進委員会 (障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準・素心会利用者の安全に関する規則)	会議 5 回	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次の通り可能な範囲の活動となった。 1 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ 2 虐待防止・人権擁護に関する取り組み 虐待防止研修 1 実施日 令和 6 年 2 月 22 日 場 所 素心学院地域交流室 内 容 障害福祉制度の変遷と障害福祉の今日的課題 虐待防止研修 2 実施日 令和 6 年 6 月～10 月 (各グループ会議にて) 内 容 虐待防止指針の読み合わせと意見交換 虐待防止のための職員セルフチェック 実施日 令和 6 年 5 月 24 日～6 月 14 日 内 容 虐待防止のためのセルフチェックの実施と集計 他所における虐待事例の共有 等 4 利用者の安全に関する取り組み 安全運転マップの見直し ヒヤリハット報告書の集計と報告 事故報告書の集計と検証 等
広報委員会	会議 9 回	素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。 1 広報誌「素心」編集、発行 73 号 令和 5 年 7 月発行 (900 部・カラー 6 ページ) 74 号 令和 6 年 1 月発行 (900 部・カラー 6 ページ) 2 素心会ホームページ ・トピックスの更新「新理念誕生・素心会の 70 年を慈しみ、未来に向か

		<p>ってスタートするために」「座談会開催・2年間新理念づくりのために対話を重ねた職員達が終結」「第30回心創展の案内」「そしん市2023の開催」「道普請と美化キャンペーンの参加」「素心学院ランチデイの開催」「ICT導入モデル事業費補助金のお礼」</p>
給食委員会	会議6回	<p>委託業者である(株)一富士フードサービスと素心会とで、各拠点における利用者状況を踏まえ次の検討を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①献立について</li> <li>②行事食の内容・実施方法について</li> <li>③刻み、アレルギー等食事の提供形態について</li> <li>④新型コロナウイルス感染防止対応について</li> <li>⑤残食について</li> <li>⑥食材費の高騰への対応について</li> <li>⑦その他</li> </ul>

(10) 新型コロナウイルス感染症について

別紙、「新型コロナウイルスに関する対応経過(まとめ)」参照

## 2 素心学院

### (1) 概要

2023年度は引き続き新型コロナウイルス感染症予防を最優先にしつつも、5月より短期入所の再開をはじめ、寮別の個別外出・ランチデイ・夕涼み会等、全体行事についても積極的に実施した。とくに旅行企画委員会による「コロナ渦における新しい余暇支援の形」として少人数・小グループによる個別対応は日常的に実施することができた。

入所者の長期休暇については5月に一か月の面会期間を設け実施し、8月からは従前とおりの一週間の帰宅期間を設けた。また希望利用者の週末帰宅と年末年始長期帰宅も再開した。

5月に疾病による女性利用者1名の逝去があったが、8月に男性利用者2名、また12月に女性利用者1名が入所となり、3月末時点の現員は69名となった。また職員では常勤職員男女各一名の退職があったが、非常勤職員4名・夜勤専従非常勤職員3名の採用を行った。

新型コロナウイルス感染予防に十分留意したが、8月28日より女子寮にて、利用者17名・職員6名のクラスターが発生、3週間弱の療養期間を余儀なくされた。幸い利用者・職員とも重篤な症状の方はいなかった。

12月、新型コロナウイルス感染症ワクチンについて、希望する利用者・職員に7回目接種を協力医療機関のもと実施した。

### (2) 出身地別入所状況（令和6年3月31日 現在）

県 域	横 浜	川 崎	東 京 他	計
61人	3人	3人	2人	69人

### (3) 年齢構成（令和6年3月31日 現在）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0	1	1	11	9	14	3	2	41
女	0	0	1	9	7	2	5	4	28
計	0	1	2	20	16	16	8	6	69

平均年齢 57.6歳

### (4) 入退所状況

退所者	市町村	退所日	退所理由
70歳 女性	神奈川区	5月3日	多臓器不全のため逝去

入所者	市町村	入所日	入所以前の所在
62歳 男性	泉区	8月1日	グループホーム
49歳 男性	大磯町	8月11日	在宅
43歳 女性	二宮町	12月15日	在宅

(5) 健康管理

毎月看護師が体重・血圧測定を実施、また各寮にて毎日定時に検温・血中酸素飽和度測定を実施した

(6) 主な入院

入院者	入院期間	疾病・治療内容	医療機関
T・Y	R. 5. 4. 3～5. 3	虚血性腸炎で入院 多臓器不全にて逝去	湘南大磯病院
Y・F	R5. 5. 25～6. 5	尿路感染	湘南大磯病院
S・K	R5. 5. 29～6. 9	急性胆嚢炎	湘南大磯病院
W・M	R5. 5. 31～6. 2	白内障手術	東海大学伊勢原病院
S・A	R5. 7. 4～7. 25	誤嚥性肺炎・貧血	湘南大磯病院
K・Y	R5. 8. 4～9. 15	左大腿骨顆上骨折手術	湘南大磯病院
A・M	R5. 8. 12～8. 17	尿路感染	湘南大磯病院
M・K	R5. 10. 12～10. 17	左眼球破裂手術	東海大学伊勢原病院
S・Y	R5. 10. 17～11. 4	服薬調整	富士見台病院
K・Y	R5. 11. 13～12. 11 R6. 3. 18～3. 29	大腸癌・ストーマ造設 尿路感染	湘南大磯病院 湘南大磯病院
H・T	R5. 6. 17～19 R6. 2. 2～2. 6	低体温・高二酸化炭素血症 てんかん発作	湘南大磯病院 湘南大磯病院
F・E	R5. 12. 27～R6. 2. 7	糖尿病の治療	湘南大磯病院
U・T	R6. 3. 18～3. 19	肺炎	湘南大磯病院

(7) 日中活動の状況（新型コロナウイルス感染症対策のためグループ再編し寮別にて実施）

ア 活動種目

鈴の組立・ピーナッツの殻むき・木工・海岸清掃・施設内清掃・音楽・運動・レクリエーション・機能低下防止・法人墓地清掃

イ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した

ウ クラブ活動

月二回、「絵画クラブ」を設定し寮別にて絵画作成を実施した

エ スポーツ活動

サッカー・ソフトボール・バレーボールを若年層向けに寮別にて実施した

(8) 防災訓練

日時	内容
令和5年 5月30日	通報訓練及び消火（模擬）訓練の実施
令和5年 6月30日	通報訓練及び消化（模擬）訓練の実施
令和5年10月26日	地震を想定した震災訓練実施
令和5年11月 9日	第32回屋内消火栓及び消火器取扱訓練（大磯町合同訓練）参加

(9) ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策のため施設への入館制限実施

(10) 月別利用実績数

施設入所（定員75人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	180	184	176	184	169	179	184	177	176	178	171	152	2,110
5	480	488	473	495	469	448	458	447	462	476	456	517	5,669
6	1,321	1,349	1,305	1,340	1,346	1,394	1,431	1,388	1,413	1,386	1,346	1,445	16,464
合計	1,981	2,021	1,954	2,019	1,984	2,021	2,073	2,012	2,051	2,040	1,973	2,114	24,243

稼働率 88.3%

生活介護（定員75人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	20	20	22	20	18	21	21	20	19	19	19	20	239
4	132	135	131	135	135	132	137	131	136	138	125	113	1,580
5	374	384	370	390	379	350	366	351	377	391	355	410	4,497
6	1,008	1,041	993	1,033	1,053	1,046	1,105	1,061	1,110	1,065	1,015	1,113	12,643
合計	1,534	1,580	1,516	1,578	1,585	1,549	1,629	1,563	1,642	1,613	1,514	1,656	18,959

稼働率 93.6%

(11) 短期入所実績（定員5人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2人
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
4	7	7	7	0	7	0	9	9	3	3	7	15	71人
5	12	6	19	3	6	5	7	21	6	10	3	4	95人
6	0	5	8	7	10	4	18	17	12	0	19	27	137人
計	19	18	34	10	23	9	34	47	21	13	7	48	307人

稼働率 29.1%

## (12) 行事等

月	学院	地域行事	保護者会	帰宅・帰院
4	3日 新年度			
5		14日 道普請 28日 美化キャンペーン		
6	8日 歯科検診 22日 ホットケーキ作り 29日 ホットドック作り			
7	7日 ドライブ外出 20日 コロナワクチン接種6回目 21日 ランチデイ 28日 昼呑みパーティー		9日 保護者会	
8	18日 焼きそば作り 21日 晩酌パーティー			6日～12日 帰宅期間
9	22日 夕涼み会 30日 バーベキュー			
10	2日 ドライブ外出 4日 バーベキュー 6日 焼き芋大会 11日 アイスクリーム作り 14日・16日 バーベキュー 18日 ピクニック外出 19日 健康診断 20日 ピクニック外出 27日 秋の芸術祭	8日 秋の道普請		
11	10日 インスタントラーメン作り 14日 インフルエンザ予防接種 17日 ティラミス作り 20日 カレーライス作り 24日 ランチデイ		5日 保護者会	
12	7日 コロナワクチン接種7回目 11日 大掃除 13日 クリスマス会 15日 餅つき			28日～ 1月3日 帰宅期間
1				
2				
3	28日 肺炎球菌ワクチン接種		17日 保護者会	

(13) 職員研修

実施日	場所	参加者	内容
5月17日 6月14日 7月12日 9月13日 10月11日 3月13日	素心学院(zoom)	小林(裕)	高齢者支援セミナー
12月20日	素心学院(zoom)	穂谷野	支援スタッフ部会
7月12日 7月13日	神奈川県民ホール	川崎	サービス管理責任者 (実践研修)
11月16日～17日	ハイランドリゾート ホテル&スパ(山梨県)	石森・矢野・加藤	全国的障害福祉関係 職員研究大会
11月7日～9日	TOC有明コンベンション ホール	田近	リスクマネージャー 養成研修

\*ほか、法人内基礎研修・基幹研修参加

(14) 重点事項への取り組みについて

新型コロナウイルス感染症対策実施の

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新型コロナウイルス感 染防止対策の継続	感染症マニュアルの見直し を実施した。また感染症対策 期間の備品購入について、計 画的に実施し、不足品が無い ように管理を徹底した。(ジ アイノの増設・抗原検査キ ット配布)	今年度、季節性インフルエ ンザの罹患者はでなかった が、新型コロナウイルス によるクラスターが発生 した。さらなる拡充(備 品・対応等)が必要である。	継続
地域生活支援拠点事業 の実施	生活支援拠点事業の緊急短 期を推進するための手続き を委員会組織にて検討した。	大磯町・二宮町に地域生活 支援拠点事業の実施申請 を行った。	実施は継続
医療的ケアの継続	事業所内2名の女性利用者 に胃ろうを実施した。また認 定特定行為業務従事者研修 に職員を派遣、資格取得者を 増員した。	指導看護師の増員・安全委 員会の設置・手技確認・研 修への職員派遣等、定型が 確立された。	実施は継続

### 3 素心デイセンター

#### (1) 生活介護事業

##### ア 概要

新型コロナウイルス感染の影響により、日中活動、送迎、稼働率などに影響を受けたが、昨年度のように閉所には至らなかった。

日中活動では班ごとの小規模なイベント（グラウンドの芝の上で玉転がし競争、風船バレー大会など）や七夕、ハロウィンの飾りつけ、絵馬づくりを行い、感染症防止対策を実施した上で餅つき大会、二十歳を祝う会やレクリエーション大会（運動会）やバーベキューを開催した。1泊旅行、納涼祭は中止となったが、個別面談は4年ぶりに対面で行い、またグループ外出（海水浴・温泉・かまぼこ作り・江ノ島水族館見物・箱根観光・ぶどう狩りなど）も実施することができた。また外部講師によるクラブ活動（音楽クラブ・パーカッションクラブ・絵画クラブ・書道クラブ）もほぼ休むことなく行った。生活介護全利用者の活動として、グラウンドに250鉢のビオラ、パンジー、ペンタス、マリーゴールドなどを植え、プランターを設置して水やり・季節ごとの植え替え・プランターの移動などを行った。生活1班（重度障害者支援）では、グラウンド歩行、身体機能維持訓練を昨年と同様に行い、近隣公園での歩行は週3回実施した。生活2班では絵画、機織り、陶芸、紙漉きなどを製作して、外部の展覧会にも出展した。生活3班では自立課題・昼食時に使用するエプロンなどの洗濯作業・機織りを行なった。また園芸作業では、利用者とともに種からひまわりやコスモスやチューリップ、葉ぼたんを育ててプランターへ植え替えを行った。

昨年度、生活介護の新規利用者は1名であり、退所された利用者は3名であった。退所された2名は素心学院に移られた。

##### イ 月別利用者状況 <定員45人>

令和6年3月31日現在

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	20	21	22	21	20	21	22	20	19	20	20	20	246
4	165	158	183	168	165	163	183	179	172	156	159	170	2021
5	351	353	377	341	311	314	332	340	316	290	305	294	3690
6	244	246	254	216	256	213	245	248	235	223	220	197	2490
計	780	778	836	746	752	711	782	787	742	689	704	681	8447

年平均稼働率78.9%

ウ 市町村別利用者数

令和6年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	小田原市	寒川町	熱海市	計
男	10	5	14	2	3	1	1	36人
女	2	3	4	0	0	0	0	9人
計	12	8	18	2	3	1	1	45人

エ 年齢構成

令和6年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	2	4	15	11	3	1	36人
女	0	3	1	5	0	0	9人
計	2	7	16	16	3	1	45人

平均年齢 35.9歳

オ 送迎サービス利用状況

令和6年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
大磯平塚コース	ワゴン車	めぐみが丘＝高村団地＝山下団地＝西小磯	6人
大磯二宮コース	ワゴン車	長者町＝生沢＝王福寺	2人
大磯コース	ワゴン車	二宮＝さつきが丘＝富士見が丘	3人
二宮コース	マイクロバス	山西＝押切＝小船＝百合ヶ丘＝石神台	7人
平塚コース	マイクロバス	平塚駅南口＝袖が浜＝大磯駅	12人
金目コース	マイクロバス	明石町＝追分＝岡崎＝広川	11人
合 計			41人

カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	10月24日	身長 体重 血圧 視力聴力 聴打診 血液検査心電図 尿検査 胸部X-P	42人	寒川病院
歯科検診	5月8日		37人	松本歯科
インフルエンザワクチン	11月14日	希望者のみ1回接種	36人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月24日	希望者のみ	36人	寒川病院
新型コロナワクチン	7月20日	希望者のみ6回目接種	40人	八重咲診療所
新型コロナワクチン	12月7日	希望者のみ7回目接種	37人	八重咲診療所

\* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告をした。

キ 日中活動の状況

①活動種目

牛乳パックの手漉き紙製品の製作、機織り、花壇の整備、事業所間文書配達、ペットボトルラベルはがし、芸術活動、自立課題。

②作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

③運動

近隣公園への歩行及びグラウンド歩行。

④クラブ活動

内 容	備 考
絵画クラブ（第1・3・5月曜日午後）	クラブは、他の活動と平行して実施した。 講師または担当職員を中心に行った。 利用者の参加は希望制。
書道クラブ（第2または4月曜日午後）	
音楽Aクラブ（第2・4火曜日午後）	
パーカッションクラブ（毎週水曜日午後）	
陶芸クラブ（毎週木曜日午前）	
音楽Bクラブ（第3金曜日午後）	

⑤レクリエーション

外出・・・海水浴・温泉・かまぼこ作り・江ノ島海水族館見物・箱根観光・ぶどう狩り・御殿場線乗車体験・南足柄花見など。

行事・・・二十歳を祝う会・餅つき・秋レクバーベキュー

(2) 就労継続支援B型事業

ア 概要

昨年、パン作業では開所した日は全てパンの製造、販売を行なった。大磯町役場の福祉ショップ「あおばと」へは毎日商品を納品または販売を行なっており、その他近隣の食料品販売店へは週3回の納品、二宮町町民センターのともしびショップ「なのはな」での販売も月に2回実施した。昨年度からはじめた大磯町、JA 全農かながわ、産業能率大学、大磯町福祉事業所の協働事業も継続している。その他、大磯町等へのイベント（チャレンジフェスタ・横溝まつり・虫窪文化祭・石神台マルシェなど）も積極的に参加した。パン作業の一年間の売り上げは、昨年度の 3,418,298 円から 4,582,944 円となった。洗濯作業として、素心学院の利用者の衣類に関しては継続しており、新たにグループホームの寝具の洗濯も始めた。また利用者の毎月の工賃は昨年度の 8,345 円から 11,391 円にアップした。

イ 月別利用者状況 <定員15人>

令和6年3月31日現在

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
延べ利用者数	295	307	298	279	260	274	323	306	306	274	285	293	3500

年平均稼働率91.8%

ウ 市町村別利用者数

令和6年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	相模原市	計
男	5	3	1	2	1	12人
女	1	1	1	0	0	3人
計	6	4	2	2	1	15人

エ 年齢構成

令和6年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	1	4	1	4	1	12人
女	0	2	0	0	1	0	3人
計	1	3	4	1	5	1	15人

平均年齢 39.7歳

オ 送迎サービス利用状況

令和6年3月31日 現在

コース名	車輛	コース	乗車数
金目コース	マイクロバス	大磯=化粧坂=六本北	1人
平塚コース	マイクロバス	大磯=平塚駅=虹ヶ浜	4人
二宮コース	マイクロバス	山西=押切=小船=百合ヶ丘=石神台	4人
大平コース	ワゴン車	めぐみが丘=山下団地=西小磯=つばきホーム	1人
大磯コース	ワゴン車	二宮=さつきが丘=シーベルホーム	1人
大磯二宮コース	ワゴン車	長者町=生沢=王福寺	1人
合計			12人

※感染症防止対策のために茅ヶ崎方面などに別便を出すことがあった。

カ 健康管理

項目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	10月24日	身長 体重 血圧 視力 聴力 聴打診 血液検査 心電図 尿検査 胸部X-P	14人	寒川病院
歯科検診	5月8日		13人	松本歯科
インフルエンザ	11月14日	希望者のみ1回接種	14人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月24日	希望者のみ	13人	寒川病院
新型コロナウイルスワクチン	7月20日	希望者のみ6回目接種	13人	八重咲診療所
新型コロナウイルスワクチン	12月7日	希望者のみ7回目接種	13人	八重咲診療所

\* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告した。

キ 日中活動の状況

①作業種目

作業内容	作業工賃
パン作業	1127,263 円
洗濯作業	741,100 円
リサイクル作業等	37,800 円
年間合計	1,881,473 円

\* 平均作業工賃 一人 11,391 円/月

②レクリエーション

外出・・・ロマンスカーミュージアム・バーベキュー

行事・・・二十歳を祝う会・餅つき・秋レクバーベキュー・カラオケ大会・ミニ運動会

(3) 日中一時支援事業

感染症防止対策のために実施していない。

(4) 生活介護事業・就労継続支援B型事業共通事

感染症防止対策のために以下のように見直した。

ア 行事等

月	デイセンター	保護者との関係
4		
5	平塚事業所合同説明会 24日	
6	歯科検診 8日	個別面談 (対面により実施)
7	七夕飾り 6月26日～7月7日 1泊旅行 中止	個別面談 (対面により実施)
8	納涼祭 中止 夏期休暇 12日～16日	
9	1泊旅行 中止 実習生 11日～15日 (生活介護) 実習生 25日～29日 (就労B) 実習生 25日～29日 (就労B)	
10	1泊旅行 中止 秋レクバーベキュー 7日 健康診断 24日 ハロウィン (玄関装飾) 16日～31日 実習生 16日～27日 (生活介護)	
11	実習生 20日～12月1日 (生活介護) 実習生 15日～24日 (就労B)	
12	実習生 4日～25日 (生活介護) 冬期休暇 30日～3日 もちつき 22日 クリスマス (玄関装飾) 11日～25日	
1	絵馬作り (玄関展示) 10日～26日 成人を祝う会 8日	
2	心創展 7日～11日	
3	お雛様作り (玄関展示) 15日～4日 実習生 11日～15日 (生活介護) 実習生 25日～27日 (生活介護)	

イ 職員研修  
外部研修

	場所	参加者	研修内容
7月13日	社会福祉法人 湘南の風	片桐・宝利	令和5年度自閉症研究会 (構造化)
9月14日	社会福祉法人 湘南の風	横山・市橋	令和5年度自閉症研究会 (評価キットA1)
10月12日	社会福祉法人 湘南の風	小清水 市橋・片桐 石井	令和5年度自閉症研究会 (集計・分析)
11月9日	社会福祉法人 湘南の風	壺井・松井	令和5年度自閉症研究会 (PECS絵カード交換式コミュニケーションシステム)
11月16日 17日	山梨県ハイランドリゾートホテル	片桐・藤田	全国知的障害福祉関係職員研究大会
11月18日 12月2日	社会福祉法人 横浜やまびこの里	宝利	自閉症基礎セミナー
12月14日	社会福祉法人 湘南の風	宝利・横山	令和5年度自閉症研究会 (PECEの演習)
1月11日	社会福祉法人 湘南の風	小清水・干田 小野寺	令和5年度自閉症研究会 (応用行動分析)
1月18日 19日	素心デイセンター (リモート)	小清水	強度行動障害支援者養成研修 (実践研修)
2月7日	神奈川運輸支局	小清水	整備管理者選任研修
2月15日	素心デイセンター (リモート)	小清水	ICT導入モデル事業研修会
3月25日	素心デイセンター (リモート)	松井	令和5年度食品衛生責任者講習会

※法人内研修

基礎研修、基幹研修、伴走研修を実施

※大磯消防署による普通救命講習（AED講習）を実施

※大磯警察署による安全運転講習を実施

ウ 防災訓練

実施日	訓練内容
11月23日	火災を想定した避難訓練と通報訓練

(5) 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率のアップ a 新規利用者の積極的な受け入れ b 福祉事業所合同説明会への参加 c 支援学校実習生の受け入れ	a、c 実習や見学など感染症防止対策を徹底して行った。 b 事業所説明会は昨年同様に参加した。	生活介護 1 名新規利用者を受け入れた。	継続する。
グラウンドの有効活用 a 園芸活動の充実 b イベント等の積極的な利用 c 利用者の作業としての活用	a プランター250 鉢を設置して利用者の作業として活用した。 b 班ごとの小規模なイベントと全体のイベントとしてバーベキュー大会を開催した。 c 芝刈りや除草などを行った。	プランター250 鉢を活用した園芸作業は活性化につながった。	継続する。
就労継続支援B型 a パン作業の充実 b パン作業の販路拡大と看板商品の開発 c 工賃アップ	a 大磯町役場福祉ショップ「あおばと」での販売など確実に成果は出ている。 b 農福学官の協働作業に参加して販路も広がりつつあった。各イベントにも積極的に参加した。 c 利用者一人当たり 3000 円/月アップした。	横溝千鶴子記念障害福祉センター福祉ショップ「あおばと」を新設して、より充実した活動を目指す。	継続する。
生活介護事業 a 日中活動の充実 b 自閉症支援の検討と実践	a. b グラウンドにプランター250 鉢を設置して利用者の作業として活用した。	プランター250 鉢を活用した園芸作業は活性化につながった。自閉症支援に関しては、種から植え付け花を育てる園芸活動を積極的に行ったが、さらに活発な活動を目指していきたい。	継続する。

## 4 地域支援センターそしん

### (1) 共同生活援助（さざんかホーム）

#### ア 概要

令和4年度に引き続き感染拡大防止対応において、暮らしの場であるがゆえに通所・通勤・介護施設のデイサービス利用など多方面にさまざまな手段で往来している状況を考え、迅速に情報収集ができ対応可能な枠組の中で安心が得られるように働きかけ実施してきた経過がある。

昭和56年から平成元年までに整備された神奈川県初の生活ホームの利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちだったが、それから40年以上の時間が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が顕著である。一昨年12月、昨年7月に逝去された利用者においては、確定診断のみでは説明のつかない、かつ医学的根拠の立ちにくい様々な症状を呈する重篤な状況から看取りまでを行った状況があります。知的障害の方への医療説明は理解可能か、医療手技の判断は、決定は有効かなどと迫られ、年度を重ね、医療倫理コンサルテーションとして取り上げられ専門家の方々に議論が繰り返されてきています。ホームの他利用者においても、診断のつけようのない状態を目前にして頭を抱えてしまうドクターも複数いらっしゃいます。入院にも至らずホームでの支援にも限界があり、混沌とした中で利用者も支援者も不安でいっぱいでは止められない毎日を過ごしています。

また、感染リスクを意識しながら職員の体調・家庭の事情による休みや自宅待機、離職等人員不足も深刻さを増す中、職員体制の確保にも追われた一年でもあった。

障害福祉サービスにおいては、比較的重度の利用者の生活の場である入所施設もあるが、65歳以上の者や2号保険該当者については介護保険サービスへの移行を優先にという市町村の意向が強まっている。地域移行や共生型の名のもとに、つまり本人の状態像や介助度、支援体制とすり合わせたサービス利用からはどんどん遠くなっている現状がある。また、自己負担の発生やケアプランの担い手の変更など、入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況をも生みだしている。これは、利用者本人にとっても支援者にとっても安心・安全からは孤立し心身ともに居場所を失っていくことになる。それぞれの障害特性から関係性を築くまでには時間のかかる利用者もいる。これまでの経緯や現状を踏まえ、医療や介護、福祉といった縦割りを超え調整と協働の機能をfullに発揮すべき時なのだと思う。スローガンが先行し他人事となってしまうがちなほど、ホーム利用者の高齢化、重度化は進み続けているが、日々の営みの中で予防的・消極的な対応ばかりではなく、少しでも活力につながるように計画的に旅行を実施、バーベキューやハロウィンでの仮装訪問、揚げたて天ぷらパーティーなどのささやかな楽しみを模索する足跡を残そうとした一年でもあった。

そのような中、令和5年度も以下の対応を重点的に行った

- ① 利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について
  - ・2階居室から1階居室への移動　　<歩行困難者への見守り及び安全な動線の確保>
  - ・地域支援センターそしんにおける入浴サービス　（特殊浴槽・バスラックの使用）
  - ・腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応
  - ・看護師による医療的ケア（吸引・骨粗しょう症対応のテリボン接種・褥瘡処置など）
  - ・新型コロナウイルス等感染防止の強化・定期的な検査の実施

②防災対策

- ・消防法改正への対応
- ・防災備蓄品リストの見直し・更新
- ・専門業者による消防設備点検

② ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立

- ・ホームページ、広告等による積極的な募集・派遣業者の導入
- ・報告・連絡・相談の徹底（生活支援員会議・ホーム別スタッフ会議を実施）

④建物の老朽化改善について

- ・疾病・高齢者・重度者への対応、65歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する
- ・想定される災害時のリスク回避（現状における危険個所の抽出と手当て）
- ・グループホームのあり方検討（プロジェクトとして実施できず担当者会議にて意見徴収）

イ 月別利用実績（定員 29 人 現員 23 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
3	180	186	177	183	167	159	186	180	186	186	174	186	2,150
4	104	119	120	124	116	90	88	71	108	87	83	93	1,203
5	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,098
6	268	279	258	259	248	240	274	270	279	273	257	279	3,184
計	672	708	675	690	655	609	672	641	697	670	630	682	8,001

稼働率 78%

ウ 出身別利用者状況

県域（政令市を除く）	横浜市	川崎市	東京都	計
17人	1人	1人	4人	23人

エ 年齢構成

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0人	1人	6人	3人	6人	0人	16人
女	0人	1人	1人	2人	2人	1人	7人

平均年齢 60.5歳

オ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0人	1人	5人	2人	1人	7人	16人
女	0人	0人	1人	1人	2人	3人	7人

介護保険認定受給者 2名（要介護3 要介護5）

## カ 健康

毎月の体重測定、毎日の検温、血圧測定・パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定も実施し、疾患の早期発見、早期治療、重症化防止に努めている。新型コロナウイルス等感染症予防対策の徹底により1年間を通して罹患者は最小限に留め、周囲への拡大、重症化も回避できている。手指消毒・除菌水・マスク・空気清浄機はもちろん食席も対面にならぬよう距離をおく、時間をずらすなど継続的に行っている。ゴーグル・シールド・ガウン・手袋等は常備し体調管理チェックシートの実施など管理体制も継続している。また、就労等で外との接触が多い利用者については定期的に医療用抗原検査、PCR検査を実施している。通院については、それぞれの主治医と受診方法や頻度を決めており、医療との連携もスムーズに行うことができた。健康診断については、感染症の関係から設定が困難ではあったが10月に実施できた。インフルエンザの予防接種、新型コロナのワクチン接種（7回目を12月に）については全員終了している。

## キ 就労等の状況

令和5年3月31日現在

	性	年	事業所名	内容		性	年	事業所名	内容
1	男	72	クーカ	創作活動等	13	男	56	素心デイセンター	洗濯・畑他
2	男	78	地域支援センターそしん	創作活動等	14	男	45	大磯エコセンター	不燃物処理
3	男	78	地域支援センターそしん	創作活動等	15	男	52	素心デイセンター	洗濯
4	男	59	柳川乳業	配送仕分	16	男	66	素心デイセンター	洗濯
5	男	72	悠々苑	高齢デイ	17	女	75	地域支援センターそしん	創作活動等
6	男	53	素心デイセンター	洗濯等	18	女	61	素心学院	環境整備
7	男	78	地域支援センターそしん	創作活動等	19	女	89	悠々苑	高齢デイ
8	男	53	リネックス(有)	不燃物処理	20	女	50	素心デイセンター	パン・洗濯
9	男	76	地域支援センターそしん	創作活動等	21	女	74	地域支援センターそしん	創作活動等
10	男	53	(株)第一三共ハピネス	商品梱包	22	女	49	素心学院	環境整備
11	男	64	素心学院	外注作業	23	女	62	地域支援センターそしん	創作活動等
12	男	64	素心学院	外注作業					

平均年齢 64 歳

## ク 入院状況

性別	年齢	期 間	病 名	病 院
男	78	令和5年7月10日 ～令和5年10月6日	精神不安定（環境調整のため）	富士見台病院
男	76	令和5年3月2日 ～令和5年7月27日	てんかん・認知症	平塚病院
男	59	令和5年6月26日 ～令和5年7月4日	腸間膜脂肪織炎	東海大大磯病院
男	64	令和5年3月7日 ～令和5年4月3日	左大腿骨転子部骨折	済生会 湘南平塚病院
		令和5年6月15日 ～令和5年6月28日	誤嚥性肺炎	湘南大磯病院

男	66	令和5年8月2日 ～令和5年9月22日	頚椎症性脊椎症	済生会 湘南平塚病院
男	74	令和5年10月26日 ～令和5年11月20日	精神不穏（環境調整のため）	平塚病院
		令和6年1月30日 ～令和6年3月31日現在入院	精神不穏（環境調整のため）	富士見台病院
女	63	令和5年8月27日 ～令和5年9月14日	左大腿骨頸部骨折	平塚共済病院
		令和5年9月14日 ～令和5年12月13日	リハビリ入院	平塚ふれあいホスピタル
		令和5年12月30日 ～令和6年1月9日	誤嚥性肺炎	湘南大磯病院

ケ 入退所状況

令和5年7月27日 76歳 男性 心不全により逝去

コ 避難訓練

新型コロナウイルス感染症の関係よりグループホームにおいて訓練を実施。（防災行政無線による訓練はできず）各ホームにて防災備品・備蓄食料のチェック・補充を行い、緊急連絡・指示マニュアルの確認を行った。

月 日	ホーム名	参加人数	内容
7月30日	かもめホーム	3人	津波を想定した避難訓練
7月30日	さざんかホーム	5人	火災を想定した避難訓練
7月30日	つばきホーム AB	10人	火災を想定した避難訓練
7月30日	シーベルホーム	5人	火災を想定した避難訓練
12月26日	かもめホーム	3人	津波を想定した避難訓練
12月26日	さざんかホーム	5人	火災を想定した避難訓練
12月26日	つばきホーム AB	10人	火災を想定した避難訓練
12月26日	シーベルホーム	5人	火災を想定した避難訓練

サ 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の獲得	関係機関より情報収集	在籍利用者の状況・住環境を総合的に判断し欠員の補充には至っていない	継続
ホームスタッフの確保・育成	求人広告等での募集 生活支援員・世話人の研修	世話人の高齢化もあり採用するも退職数に追いつかない 研修は実施できず書面にて啓発	継続
利用者の高齢・重度化に伴う環境整備等および支援体制について	ADL に応じ住空間の設定 福祉用具の導入（低床ベッド） 離床センサー・ナースコール等の設置 緊急連絡マニュアルの整備	今できる最大の配慮・手立ては行っている。（緊急度の優先順位において療養型への移行を進めることや介護認定の相談・依頼を行う）	継続
新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の徹底	感染予防マニュアルに基づき適切な対応の徹底 必要な検査での医療精査	環境設定、衛生用品の充足、予防対応・手技の確立・徹底	継続
後見人制度のすすめ	介護施設への移行・入院手続き・契約等で必要となり利用手続きを行う	援護の実施元の協力も得て親族調査を行うが、次々と難題が立ち上がる。申し立ての形態から検討。	継続

(2) 相談支援

ア 概要

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児者の特定相談支援、サービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。新型コロナウイルス感染症の取り扱いが変わったとはいえ、訪問などの相談支援の実施や情報の取り扱いなど顔のみえる距離でのコーディネートには配慮や工夫が必要な状態は続いた。止まることのない、そして更に牽引して起こるニーズに対し相談支援体制を引き続き模索した一年でもあった。相談件数の増大、相談内容の複雑化の中で相談員数、対応時間、対応方法、社会資源の不足感は継続的に高まっている。地域に特定相談支援事業所が増えたものの、この状況下において地域事情の共有、制度における共通認識等の確認の場を持つ機会も限られ、基幹相談支援センターとしてコントロールタワーの役割を十分果たすことができないジレンマを前に課題の山積であった。ネットワーク形成もタイムリーな支援につながりにくい状態が続いたせいかわつネットワークよく共感や共有につながる土壌の再建に時間がかかっている。クライアントの発信と受け手の相談支援者のキャッチに差異が生じやすくニーズに対する具体的な支援が叶わない場面もみられた。また、医療的ケア児支援法が制度化され、コーディネーターの配置により、インクルーシブな＜本人・家族・地域＞への支援を求められてきている。社会情勢を反映して複合かつ多様な課題が後を絶たない中、このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう根本的な地域の相談支援体制の在り方、調整・連携について大磯町・二宮町の両町とともに継続的に検討する場をもっている。

イ 相談件数

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
大磯町	障害者	414	82	5	191	112	56	8	8
	障害児	121	9	3	76	14	59	3	6
	合計	535	91	8	267	126	115	11	14
二宮町	障害者	401	91	9	188	97	59	8	7
	障害児	127	15	4	79	8	61	2	4
	合計	528	106	13	267	105	120	10	11
総計		1,063	197	21	534	231	235	21	25

ウ 支援内容

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解に関する	健康・医療に関する	不安の解消・情緒安定	保育・教育に関する	家族関係人間関係に関する	家計・経済に関する	生活技術に関する	就労に関する
大磯町	1941	398	456	719	506	412	97	58	304
二宮町	1908	447	491	774	511	372	141	43	291
合計	3,849	845	947	1,493	1,017	784	238	101	595

	社会参加	権利擁護	その他	合計
大磯町	99	74	48	5112
二宮町	162	84	10	5234
合計	261	158	58	10,346

前年度合計 10,289

エ 支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
大磯町	319	181	98	3911	94	223	262	24	5,112
二宮町	311	218	102	4014	87	263	231	8	5,234
合計	630	399	200	7,925	181	486	493	32	10,346

オ サービス等利用計画・障害支援区分認定調査

成人	計画数	モニタリング数	児童	計画数	モニタリング数
大磯町	100件	80件	大磯町	71件	42件
二宮町	103件	104件	二宮町	68件	50件
その他	1件	8件	その他	0件	0件
計	204件	192件	計	139件	92件
前年計	221件	243件	前年計	139件	105件

カ 障害支援区分認定調査

障害支援区分認定			
大磯町	42件	二宮町	42件
前年度	大磯町 59件	二宮町	49件

キ 関係機関との会議

地域自立支援協議会	圏域自立支援協議会	相談支援ネットワーク
精神保健ネットワーク会議	難病・特定疾患ケース検討会	重心関係機関連絡会
就労支援ネットワーク	職業リハビリテーション会議	母子保健メンタルヘルス会議
児童相談所連絡会議	特別支援教育連絡会議	教育委員会連携会議
要保護児童ケース会議	小児在宅ケア連絡会	小児神経学ケース会議
進路開拓会議	児童養護施設関係者会議	児童精神医学研究会
高次脳機能障害研究会	生活保護ケース検討会	神奈川県公安委員会警察署協議会
高齢・障害連携会議	地域リハビリテーション会議	地域コンサルテーション

ク 重点事項への取り組み <相談>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
今後の地域における相談支援体制に関する検討	事例検討および関係者での情報共有の機会を定期的に設け両町担当者との会議も継続的に行う	定期的な意見交換や情報共有の機会是有効であり、課題については解決に向けシステムの構築等につながっている	継続
有資格者の確保・育成	実務経験等該当する人材については研修を受講 現従事者については更新の手続きを確実に進行	研修・更新手続きについては滞りなく行っているが新たに相談に従事する専門員の確保には至っていない	継続

(3) 児童発達支援（未就学）

ア 概要

令和4年度とは違い感染対策における自粛休園児童の数は少なかったが、併用している保育園や幼稚園の休園や兄弟姉妹の学校の閉鎖状況に応じお休みしたケースも多くみられた。マスクを着用できない子供も多く、また障害特性においてマンツーマン対応・密着が避けられない子供がほとんどであることから繰り返し体調管理、不良の際には（家族や周辺状況含め）発信を継続的にお願いしてきた1年であった。（年度後半は、インフルエンザの流行の影響も大きい。）

・感覚（触れる・咬む・舐める・嗅ぐなど）としての拘りへの統合教育においては、感染予防対策をとりながらの活動となり、リスクが高いが早期療育の柱として機を逃すわけにはいかない。

・交流保育やプール活動も引き続き見送っているが、公園やつどいの場への外出は頻度を減らしつつも状況をリサーチしたうえで行っている。イベント（夏祭りや運動会等）は保護者に限定し外部の方は遠慮いただき遊戯室で実施、後日動画を編集しDVD・写真等で成長を共有している。

・作業療法士の常勤配置により個別療育において、子ども本人への発達支援はもとより家族支援地域支援そして職員集団もスキルを身に付けていく機会となっている。また、不定期ではあるが心理職の導入もあり連動して療育体制を整備し情緒の安定を図る個別支援計画の作成・実施については、保護者や関係者から一定の成果・評価がいただけた。

イ 月別利用者状況 <定員10人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
158	167	168	148	157	151	174	178	180	170	176	190	2,017

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	茅ヶ崎市	合計
984	1,017	16	2,017

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男子	0	108	490	191	611	1400
女子	0	22	196	91	308	617
合計	0	130	686	282	919	2,017

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2	精神	身体	重心	未取得	合計
180	0	286	518	0	279	0	1033	2,296

カ 重点事項への取り組み <児童発達支援>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	食を営む力は生きる力 いのち 育ち 人間関係 楽しい食事の場面づくり	幼児食としての確立・嗜好 調査の未実施に課題が残る アレルギー対応・提供形態 の個別対応への協力が得ら れた（給食委員会で依頼）	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、 家庭・関係機関と連絡を密 に体調管理・予防策の徹底	継続

(4) 放課後等デイサービス（小学1年から高校3年）

ア 概要

令和4年度5月に入り感染症対応が変更になったとはいえ、引き続き新型コロナウイルス感染症予防における学校の対応はさまざま（閉鎖の基準・日数、濃厚接触者の扱い方等）休校や授業短縮の連絡も直前にならないと入らず見通しのつかないことが多くあった。

サービスを他事業所と併用している児童においては、罹患状況がタイムリーに入らず危険予測がしづらい状況でもあった。危機管理に対する共通認識ももちづらく適切に感染を恐れる必要性を児童本人には特性に合わせ伝え方を工夫し、家族も含め繰り返しインフォメーションしてきている。

- ・感染防止を徹底する中でも生活力に加えそれを駆使して楽しめる力を育てていく目標を見失わないように心掛けた。生きた教材がある地域のなかで実践を通じ学ぶことに制約はあったが設定活動に重点を置いて取り組んだ。しかし放課後等デイサービスのあり方が問われる中、アセスメント・課題抽出・プログラムの構築など取りこぼしたことも引き続き多くあったことは事実だ。

- ・家族支援においては、面談の機会は少なかったが、連絡の取り方を工夫し取り組んだ。

発達課題の大きい思春期の子どもや要保護のケースなど関係機関とも連携し進めている。

- ・地域支援はインクルージョン推進の観点からも単なる情報共有にとどまることなくつながって活動していくことを意識した。医療的ケア児や重度重複・強度行動障害児童には、看護師・作業療法士・理学療法士・臨床心理士の支援や助言を得ながら療育的アプローチを行ってきている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
358	352	360	333	317	346	360	323	360	315	306	336	4,066

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	中井町	秦野市	平塚市	横浜市	合計
1,991	2,075	0	0	0	0	4,066

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計	合計	
男子	210	476	513	185	83	525	1992	4,066	
女子	125	110	137	22	278	283	955		
合計	335	586	650	207	361	808	2,947		
	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	合計		
男子	0	169	248	4	80	154	655		
女子	0	131	3	0	0	330	464		
合計	0	300	251	4	80	484	1,119		

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2	精神	身体	重心	合計
446	873	631	1254	330	169	146	3,849

※障害状況について 児童通所（児童発達支援・放課後等デイサービス）

四肢体幹機能不全、難治性てんかん、慢性肺疾患、低酸素脳症、白血病、視覚障害  
聴覚障害、股関節変形症、レット症候群、水頭症、福山型筋ジストロフィー

プラダウィリー症候群、口蓋裂、双体性輸血症候群、脳腫瘍、心疾患などの重複がある。

カ 重点事項への取り組み <放課後等デイサービス>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
放課後デイのあり方研究 ソーシャルスキルトレーニングの実施	役割意識やルール、約束などの決まり事を小集団でのグループワークにて行う	計画的な積み上げに至らず断続的な実施となったため根本的対策を図っていく。	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	継続

(6) 自立支援協議会

ア 概要

新型コロナウイルス感染症の流行拡大を受け、令和3年度以降は、書面により協議や意見交換等を行う型式を一部取り入れて実施してきたが、令和5年5月に、感染症法上の位置づけが2類相当から5類へ変更となったことに伴い、部会、本会ともに従来通りの対面型式で全て開催することができた。今年度は、両町内にて新たに事業を開始した5か所の事業者を部会委員に加え、自然災害発生時の対応についての協議と、初めての試みとして障害種別、分野別の課題について意見交換を行った。具体的には、「相談支援について」と「児童期の支援について」というテーマを設け、それぞれの立場から課題の共有を図るとともに、相互の役割分担の重要性について再確認する機会となった。研修会については、民生・児童委員を主な対象として、障害福祉制度の変遷と障害特性について基本的な理解を深めることをねらいとして開催した。また、第6回の部会では両町の防災担当部署の担当者を招き、防災に関する研修会を開催した。要支援者に対する個別避難計画の作成状況についての説明と、今年の元旦に発生した能登半島地震の被災地に派遣され避難所の運営に実際に関わった経験にも触れる貴重な機会となった。前述の通り、新しく事業を開始した事業者が加わったことにより、児童期から成人に至るまで支援に関わる社会資源は以前と比較して広がりを見せている状況である。来年度も、地域で直面している課題について、いくつかの具体的なテーマを設けて意見交換を行う予定である。

イ 協議会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回 令和5年8月9日	大磯町立福祉センターさざれ石 2階レクリエーション室	1 会長・副会長の選任 2 令和4年度活動報告 3 令和5年度活動計画 委員18名 事務局10名
第2回 令和3年3月24日	大磯町立福祉センターさざれ石 2階レクリエーション室	1 令和5年度活動報告 2 令和6年度活動計画 3 各事業所、期間からの報告 委員16名 事務局8名

ウ 研修会・勉強会

	日時	内容
第1回	令和6年1月11日	障害福祉制度の変遷と障害特性に関わる研修会 大磯町民生児童委員を対象に実施。
第2回	令和6年2月6日	障害福祉制度の変遷と障害特性に関わる研修会 二宮町民生児童委員を対象に実施。
第3回	令和6年2月16日 (第6回部会)	防災に関する研修会 二宮町防災安全課・大磯町危機管理課による講演。

エ 部会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回部会 令和5年6月19日	大磯町横溝千鶴子記念 障害福祉センター	1 新型コロナの類型変更後の対応について 2 令和4年度活動報告と令和5年度計画について 3 障害福祉サービス施設・事業所等における自然災害発生時の対応について 委員13名 事務局9名
第2回部会 (大磯町拡大部会) 令和5年10月25日	大磯町横溝千鶴子記念 障害福祉センター	・障がい福祉計画と地域ニーズについて 委員9名 事務局8名
第3回部会 令和5年11月7日	大磯町横溝千鶴子記念 障害福祉センター	1 自然災害発生時の対応について 2 相談支援に関する意見交換 ・虐待及び医療的ケアに関する事例 委員8名 事務局10名
第4回部会 (二宮町拡大部会) 令和5年11月29日	二宮町町民センター3A クラブ室	・第7期二宮町障がい福祉計画に関する意見交換等 ・第3期二宮町障がい者福祉計画に関する意見交換等 委員11名 事務局10名
第5回部会 令和5年12月20日	大磯町横溝千鶴子記念 障害福祉センター	1 自然災害発生時の対応について 2 障害児支援に関わる意見交換等 ・各事業所の現状と特色、課題について 委員10名 事務局12名
第6回部会 令和6年2月16日	大磯町横溝千鶴子記念 障害福祉センター	1 防災に関する研修(両町防災担当課) 2 来年度活動に関する意見交換 委員13名 事務局12名

(7) 生活介護

ア 概要

対象が高齢知的障害者や重症心身障害者であるため感染リスク・感染における重度化が心配される状況に常に怯えてきているが、罹患の拡大や影響なく過ごすことができている。5類への移行後も少しの体調の変化も見逃さず、感染の周辺状況を迅速に情報収集し必要に応じて利用を控えていただくなどの対応をとってきている。入浴・排泄・食事等ほぼ全てにおいて密接な介助が必要な利用者や家族のセーフティーネットとしての使命もあり、考え得る限り、できる限りの感染防止策を講じ支援を継続した。ワクチン接種は、7回目を12月に実施し、全員が終了している。全てを速やかに何より当支援センターで実施できたことの安心感をどの保護者も伝えてきている。

- ・年間予定に掲げていた日帰り旅行、バーベキュー等については周囲の罹患状況を見て、中止せざるを得ず、楽しみを奪うことにもなってしまったが、室内でのイベントに切り替え季節を感じられるものを取り入れ、役割やつながりを感じられる活動を進めている。また、2年にわたり実施できずにいた成人式も場を設けご両親とともに祝い膳を囲み、20年の軌跡を分かち合った。
- ・障害の特性に沿って感覚に働きかける刺激を活用した関わり（香り・光・映像・音楽・温冷感等）で自己表現の手立てを模索している。たくさんのリスクの中でも楽しみの創出など小さな気づきを形にする支援を目指してきている。
- ・理学療法士によるポジショニングや機能低下防止活動の実施、環境設定への助言を得ながら利用者・支援者ともに活動の目的や意味を問い続けている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	9	21	22	20	17	0	0	0	12	0	0	0	101
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	292	301	315	269	277	273	299	281	281	282	253	261	3,384
計	301	322	337	289	294	273	299	281	293	282	253	261	3,485

ウ 市町村別利用者数

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	伊勢原市	小田原市	秦野市	その他	計
男	1	4	0	0	0	1	1	3	10人
女	3	3	0	0	0	3	0	2	11人
計	4	7	0	0	0	4	1	5	21人

エ 年齢構成

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	0	3	3	0	0	5	11人
女	0	7	1	0	0	2	10人
計	0	10	4	0	0	8	21人

オ 障害者支援区分

障害支援区分 4 から 6 へ変更 1 名  
(12月審査会より)

支援区分	3	4	5	6
利用者数	0	1	0	21

カ 送迎サービス利用状況

令和5年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
A コース	リフト付ワゴン車	西小磯＝国府本郷＝富士見ヶ丘	5 人
B コース	リフト付ワゴン車	石神台＝国府本郷＝国府新宿	5 人
C コース	リフト付ワゴン車	中里団地	1 人
D コース	リフト付ワゴン車	山西	2 人
E コース	リフト付ワゴン車	国府新宿＝石神台	2 人
家庭送迎			6 人
合計			21 人

キ 健康管理

健康診断・腫瘍マーカーは令和5年10月31日に実施。

日常の健康チェックは支援員が毎日定時にて体温・血圧・SpO2の測定を実施し、各家庭に報告、共有をしている。また月初に体重測定を行っている。

医療的ケアの利用者へは、主治医の指示書に基づき看護師が行っている。

ク 日中活動の状況

園芸・・・支援センターを花で満たすためのプランター・花壇作りとその手入れ。

陶芸・・・食器や装飾品の製作。

創作・・・年中行事に関連した飾り作り、刺繍、編み物、絵画、紙漉き。

運動・・・毎週火・木曜日の午前、遊戯室にて実施。内容はラジオ体操、トランポリンやバランスボールを使用したエクササイズ、マット運動、ボーリング、玉入れなど  
個別対応にて介助歩行、階段の昇り降り、マッサージやストレッチを実施。

音楽・・・鑑賞・楽器演奏・リズム遊び・合唱・ゲームレクリエーション

清掃・・・毎週金曜日の午後に活動室内の掃除機かけ、台拭き、手すり磨き、モップがけ

ケ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

コ 入浴

福祉用具や手動式入浴リフトを使用した個浴と介護浴槽による入浴の実施。ケガ等により入浴制限のある方のシャワー浴や清拭も必要に応じて行なった。月曜日から金曜日まで毎日午前と午後に分けて、1日平均7名が入浴。定期利用されている方は13名。

医療的ケアや処置のある方については、入浴場面に看護師を配置し実施している。

グループホームにおいて入浴が困難となった利用者については、状態に合わせた形態で実施。

サ レクリエーション

運動レク・・・ 天気の良い日は外に飛び出し公園などの散歩を楽しむ。

アニマルセラピー・・・ 動物とのふれあい・ドッグランの見学

外出・・・ 散策等を実施。(個別・グループ外出はできなかった)

シ 行事・・・ クリスマス・餅つきなどを実施。誕生日・成人の祝いも行う。

ス 保護者との関係

\*個別面談は書面にて実施 \*保護者懇談会・給食試食会は検討するも未実施

セ 重点事項への取り組み <生活介護>

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	安全で安心な食事提供 楽しみを感じる食事	配慮食としての確立・嗜好調査の未実施に課題が残る	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・ 関係機関と連絡を密に体調管理・予 防策の徹底	継続

(8) 職員研修

日時	場所	参加者	内容
令和5年4月26日	神奈川県総合医療会館	滝沢	障害支援区分認定調査員研修
令和5年 6/28 7/24 8/29 令和5年 7/6 8/3 9/7	平塚市商工会議所 厚木市商工会議所	小沢 西山	相談支援専門員現任研修
令和5年 9/11, 12 10/18, 19 11/17 12/13, 14	小田原合同庁舎	藤原	相談支援専門員初任者研修
令和5年11月6日	素心学院 地域交流室	及川・宮 臺・秋山・ 関谷	救急救命・AED 実施研修
令和5年11月7, 8, 9日	Toc 有明コンベンションホール	小幡	リスクマネージャー養成研修

\*法人内研修 <基礎研修・基幹研修>

(9) 実習受け入れ <作業療法士>

\*神奈川県立保健福祉大学

\*横浜リハビリテーション学院

\*国際医療福祉大学

(10) 地域への協力（会議室・遊戯室・カフェの貸し出し）

利用団体	利用日	内容	場所	利用人数
二宮農園プロジェクト (二宮農園・子ども農園)	2回/月 日曜日	自然栽培	駐車場	15～20人/ 回(車8台)
グリーンエネルギー湘南(太陽光)	不定期	会議・活動	カフェ 駐車場	15人/回

\*びあの会・みんなのカフェ・認知症カフェについては中止